

令和4年度 家政学部 後期授業アンケート結果の講評（案）

講 評 者

ライフスタイル学科長/家政学専攻長：丹羽誠次郎

管理栄養学科長/管理栄養士専攻長：竹村ひとみ

こどもの生活学科長/こどもの生活専攻長：加藤万也

〔1〕アンケート実施について

後期授業 14～15 週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。

アンケート回収率については下記の通りであった。

	実施率	回答率 (%)	回答率 (最高) (%)	回答率 (最低) (%)
家政学部 (全体)	93.5	75.8	100	25.0
ライフスタイル学科 /家政学専攻	93.3	70.9	100	25.0
管理栄養学科/管理 栄養士専攻	92.7	77.2	100	25.0
こどもの生活学科/ こどもの生活専攻	94.3	76.8	100	33.3

〔2〕授業における教員に対する評価

〔質問項目〕

質問 1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問 2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問 3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問 5. 教員は、学生が pisa 型学力（知識の獲得・活用・解決）と社会人基礎力を発揮できる授業を展開した。

質問 6. 教員は、シラバスに一致した学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問 7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問 8. 教員が作成した予習・本時・復習シート（PCR シート）は、学修内容の理解に役立った。

質問 1-8 の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」

「1 全くそう思わない」

〔アンケート結果〕

	家政学部 (全体)	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問 1	4.28	4.22	4.31	4.33
質問 2	4.15	4.04	4.16	4.25
質問 3	4.21	4.16	4.21	4.31
質問 4	4.20	4.11	4.21	4.29
質問 5	4.17	4.11	4.18	4.25
質問 6	4.20	4.12	4.27	4.23
質問 7	4.19	4.03	4.26	4.25
質問 8	4.07	3.89	4.12	4.20

質問1～8 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「授業における教員に対する評価」はおおむね4.0ポイント前後を得ている。これは前学期（2022年度前期）とほぼ同様の数値である。依然として全項目において他学科／専攻の平均値に及ばないものの、その差は若干縮まりつつある。質問項目別では質問8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCRシート）」は、学修内容の理解に役立った」が、全学期同様に最もポイントが低く、質問9以降の「学生自身の学修に対する評価について」の結果にも関連する。授業への取り組みの見直しを引き続き学科／専攻教員に求めたい。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

「授業における教員に対する評価」について概ね良好な評価を得た。同年前期と同程度か若干低い評価であった。中でも、質問1「授業時間分の学修内容の実施」質問6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」が高い評価を得ており、大半の学科教員が実践していると言える。一方、質問2「説明は明確で理解しやすい」質問8「PCRシートは、学修内容の理解に役立った」がやや低評価であったことから、受講生が理解しやすい説明を心がけ、学修内容の理解に役立つPCRシートを作成していくことが必要である。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

「授業における教員に対する評価」は全て4.0ポイントを超えており、授業に関して学生の満足度は低いと思われる。特に、「説明」「時間配分」など授業の基本的な指導に関わる項目の評価が高いことは、学生の理解に直接つながることであるので、このままの状態を維持できるように努めたい。ただ、全体的に同じようなポイントになっていることから、学生が項目の内容を精査して評価しているのか疑問が残る。アンケートの際に目的なども含めて口頭での注意も必要だろう。

〔3〕学生自身の学修に対する評価について

質問9. あなたは、予習・本時・復習（PCRシート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問10. あなたは、毎週シラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。

質問11. あなたは、毎週シラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。

質問12. あなたは、予習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問13. あなたは、復習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問14. あなたは、この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。

質問15. あなたは、この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度で）で教えてください。

質問16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

質問18. 教員からの学修支援に満足している。

質問19. あなたは、この授業を通してシラバスの「科目の概要」に記載されているディプロマポリシーに到達した。

★質問9-13、16-19の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★質問14、15の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

	家政学部 (全体)	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問 9	4.01	3.79	4.11	4.10
質問 10	3.89	3.57	4.05	3.98
質問 11	3.88	3.58	4.03	3.99
質問 12	3.99	3.70	4.10	4.12
質問 13	4.03	3.76	4.15	4.15
質問 14	50.21	37.84	52.05	57.29
質問 15	55.14	44.37	68.62	56.54
質問 16	4.01	3.88	4.01	4.11
質問 17	4.14	4.02	4.14	4.25
質問 18	4.13	4.05	4.14	4.25
質問 19	3.97	3.79	4.00	4.23

質問 9～19 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対しての評価」同様、すべての項目において3学科/専攻中、最低のポイントにとどまっている。予習・復習に要している時間についてもシラバスで示している時間に足りていないが前学期の48.1分から82.2分と改善の傾向にある。今後も、予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業時間外での学修に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底していきたい。質問18「教員からの学修支援に満足している」は前学期より0.4ポイント高評価となったが、質問19「あなたは、この授業を通してシラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の数値は依然として低い。継続して授業改善に取り組む必要がある。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

「学生自身の学修に対する評価」について概ね良好な評価を得た。同年前期と同様に、質問9「PCRシートに記載されている社会人基礎力を発揮した予習・復習への取り組み」、質問13「復習による学修内容への理解の深まり」について高い評価を得た。前期同様、予習に比べ復習により多くの時間を費やしていた。平均予復習時間は、前年度後期に比べ、予習8分、復習13分程、増加した。一方で、質問16「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」、質問19「シラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の評価は前期同様やや低い。毎週シラバスを確認して授業に臨むこと、到達目標を意識した学修の重要性についても周知していく必要がある。また、到達目標に達成していないと評価した学生へ向けた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

「学生自身の学修に対する評価」については、教員への評価と比べると多少低めの数値になっていることが気付きである。項目全体を通して、学生が通常の学修生活の中で意識的に取り組んでいないのではないかと、またシラバスについては利用されていないのではないかと懸念がある。一方で、予・復習の時間については60分程度であり、シラバスの記載に近い状態となっている。教員の指示に実直に従うという学生の

特性が感じられる。それゆえに、学修成果に直結する宿題、予・復習の提示を心掛けなければならない。

〔4 学修行動について〕

質問 20. この授業の学修行動において、必要性はあったが発揮「できなかった」能力はどれですか。（複数回答あり）

★質問 20 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

	発揮できなかった能力			
家政学部（全体）	ストレスコントロール力(23.0%)	計画力(21.8%)	創造力(19.0%)	働きかけ力(17.9%)
ライフスタイル学科/家政学専攻	計画力(28.9%)	働きかけ力(23.9%)	発信力(23.0%)	創造力(21.3%)
管理栄養学科/管理栄養士専攻	計画力(23.7%)	ストレスコントロール力(23.7%)	創造力(22.0%)	発信力(20.9%)
こどもの生活学科/こどもの生活専攻	ストレスコントロール力(24.7%)	計画力(17.9%)	働きかけ力(14.5%)	発信力(13.5%)

質問 20 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

必要性はあったが発揮「できなかった」能力のうち「計画力」「働きかけ力」「発信力」については前学期と同様だが、今期はそれに続いて「創造力」を挙げている。ここでの学生の回答は、学修活動に取り組む中でその能力要素をどれだけ強く意識したか、あるいは自身の目標をどれだけ高く設定したかにも関係していると考えられる。とくに計画力を発揮「できなかった」とする学生が28.9%と他学科/専攻と比して顕著に高い数値を示し、そのほかでも高い数値が現れているのは、たとえばスタジオのプロジェクトのように難易度の高い長期のプロジェクトと真摯に向き合った結果であるとも考えられよう。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

必要性はあったが発揮できなかった能力として、上位に「計画力」「ストレスコントロール力」が挙げられた。「計画力」は前年後期、同年前期にも上位に挙げられた要素である。毎週、各科目の課題を提示された期限までに提出するためには、優先順位を決め計画的に取り組む力が求められる。どのように進めていくべきか、常に意識して取り組むことにより、社会で求められる能力の育成に繋がると考える。一方で、前に踏み出す力である「主体性」「働きかけ力」「実行力」は上位4項目には挙げられず、多くの学生が発揮できていると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

必要性はあったが発揮できなかった能力として、上位に「ストレスコントロール力」が挙げられている。ストレスの多い職種に就職することが見込まれる本学科の学生には一番に発揮して欲しい力である。社会人として耐えうる「ストレスコントロール力」の育成のために学科としてどのような指導が望ましいかを検討しなければならない。一方で「計画力」「働きかけ力」「発信力」については他学科に比べると低い値を見せている。自己肯定感という点ではある程度心配ない状態が維持できていると言える。